

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々の申し送りの際に、理念を管理者を含め職員全員で復唱しています。 また、職員一人一人も理念に基づき日々業務にあたっています。	「施設理念」と「介護理念」があり、介護理念を毎朝の申し送り時に唱和している。毎月、発行されている倫理の読本で日々の内容をリーダーが読み上げ、その日の心がけについて職員全員で復唱しケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	定期的に近隣のボランティアの方との交流や保育園の子ども達との交流をいつも楽しみにしています。 また、秋には地域の方々を獅子舞を披露して下さったり、コミュニティーホールとして、地域の方々の交流の場としても活用して頂いています。	区費を支払い地区の一員となっており、回覧版で地域の行事等の情報を得ている。小規模多機能型居宅介護と合同の納涼祭は回覧で地域にお知らせし、家族や地域の人々との交流の場としている。週3回ハーモニカボランティアの来訪もあり、楽しみにしている。地域の人々に向けて「認知症を知ろう」と題してミニ講座も開く予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設で行う行事には、回覧版等を活用し参加して頂いています。 その際に、認知症についてアドバイス等をお話しさせて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、現在の取り組み状況や、報告を行っています。会議に参加されている方々より、アドバイス等を頂き、サービスの向上に繋げるよう努めています。	家族代表、区長、民生委員、町の職員、在宅介護支援センター職員、ホーム関係者の参加の下、併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で偶数月に開催している。納涼祭やクリスマス会と同日に運営推進会議を開き、他の行事にも委員の方に参加していただいている。災害時の協力も働きかけていく予定である。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議へ積極的に参加している他、運営推進会議に行政の担当者も参加して頂き情報を伝えています。 また、必要に応じて行政担当者と連携を密にし協力体制をとっています。	隣接する3市町村合同で開かれている地域ケア会議に参加し情報交換をしている。利用者も3市町村にわたっており、待機者も多数いることから連携を密にとっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間では、拘束はいけないことであることは、理解していますが、正しい理解という面ではまだまだ理解不十分な職員もいます。ただ、拘束しないことを念頭に置き業務にあたっています。	職員は身体拘束をしないケアに心がけている。状態によりセンサーマット等家族と相談しながら使うこともある。その際は状態に配慮し検討を常に行っている。年に1回は身体拘束についての研修会を計画している。外出傾向があっても日中は施錠せず、見守りにより様子を見ながら職員が付き添い散歩するなど、行動を抑制しない対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声掛けや介助方法に関して職員同士で情報を共有し、虐待の防止に努めています。 また、カンファレンスや申し送りにて虐待等の話題にふれ、徹底して防止に努めています。		

けんちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	カンファレンス等で成年後見人制度について情報を提供しています。また、個々の必要性につきましても、必要に応じて話し合いをしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関することは、契約の際に丁寧に説明を行っています。不安や疑問点があった際は、納得して頂けるまで十分に時間をかけ、説明しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	法人として、第三者委員を設けている他、日頃から接している中で、何気ない利用者様・ご家族の意見に耳を傾け、情報を共有するようにしています。また、職員も、要望等があった際は、管理者に報告しています。	毎月併設の小規模多機能型居宅介護事業所と合同で「いきいき新聞」を発行しており、請求書と管理者が月々の状況を書いた手紙を家族に送り意思疎通を図っている。面会時にも日々の様子を話し、要望や意見を聞いている。独居で利用している方も数名おり、成年後見制度を利用している方や検討中の方もおり、希望に沿えるように取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のカンファレンスや日々の業務の中で、職員の意見や提案に耳を傾ける他、代表者や管理者は年に1~2度個人面談を行い、職員もいきいきと働けるように努めています。	月1回の全体のカンファレンスに加え、施設長、管理者、主任、リーダー5名でのリーダー会議も毎月開かれており、職員の意見を検討し運営やケアに活かしている。職員は2ユニットを交互に勤務しているため全体の状況を十分把握しており、ユニットにとらわれず日常的な課題についても前向きに話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談を行い、個々の目標を定め、そこに向かって邁進できるように助言等を行っています。 また、職員に対しては、働きがいを感じてもらえるよう評価をする等、職場環境にも配慮し、向上心を持って働けるよう努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の力量に応じた目標を定め、目標が達成出来る様に、業務を通じ、実践を交えながら助言を行っています。 また、カンファレンスにて外部研修で得た知識を再度共有する等、職員のスキルアップに努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議への出席や、外部研修に参加し交流する機会を設けています。 また、他施設へ見学に行くことで、情報交換を行いサービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用者様の情報を全職員で共有し、本人様が安心して生活して頂けるよう、環境を含め配慮しています。 また、言葉だけでなく、表情や仕草からもその時の利用者様の状況を読み取り、安心して頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	まずは、施設がどんなところなのか、見学を含め実際に見て、普段どのように過ごしているのか説明させて頂いています。その中で、ご家族が不安に思っていること要望等をお聞きし、その情報を全職員で共有し可能な限り対応するよう努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様々な情報や状況に応じて見極めを行いその時にあった支援を適切に行えるよう努めています。 その際、他のサービスの情報もしっかり説明し、利用者様とご家族が納得して頂けるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	『いきいき家族』という法人名に沿い、3世代家族の介護理念の基に、全職員が日々業務にあたっています。 その中で心掛けていることは、常にご利用者様を尊重し、尊厳を大切に共に生活を送るということを念頭におき、業務にあたっています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設にて息子様と一緒に夕飯を食べ、安心して就寝される場を設けている等、利用者様やご家族のニーズに合わせ、本人様とご家族との絆を大切にしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の友人や知人の面会を積極的に行ったり、自宅へ行ったり等関係が途切れないよう努めています。	ホーム利用前からの馴染みの美容院を利用している方がいる。月に1回は理容師の来訪もあり、利用者とも顔馴染みとなっている。また、定期的に訪れるボランティアとも新たな馴染みの関係が出来つつある。昔からの馴染みの場所の桜を毎年楽しみにしており、花見にお連れすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーション等を通じ利用者様同士が楽しく過ごせるよう配慮しています。特に難聴の方に対しては職員が伝達ツールとなる等の工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご利用が終了された後も、今までの関係を大切にしています。 また、必要に応じて相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	常に利用者様とのコミュニケーションを大切にし、その都度可能な限り希望や意向に沿えるように努めています。困難な場合は、じっくり本人様と話し、納得して頂けるよう話し合いの機会を持つようにしています。	コミュニケーションをとりにくい方もいるが、その都度希望をお聞きしながら沿うように取り組んでいる。地域ケア会議で情報をいただき町の「お笑いはつらつ演芸会」に参加するなど、日頃の利用者の意向に沿えるような新たな取り組みにも挑んでいる。温泉に行きたいという希望もあり、福祉風呂のある施設を検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前にご家族に情報を提供して頂いたり、本人様としっかり話をさせて頂くことで、本人様が混乱せず、日々過ごせています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の利用者様の状況を記録し、特に重要なことについては、業務日誌に記載するとともに、申し送り等にて職員間で現状の把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネージャーを中心としてご家族や本人様、医療機関等と話し合いを持つようにしています。 また、カンファレンスや日頃の業務の中で、出された意見やアイデアを取り入れ、介護計画を作成するように努めています。	各利用者には居室担当の職員がおり、その職員が毎月モニタリングを行っている。月に1回開くカンファレンスでそれを基に職員全員で介護計画の検討を行っている。状態の変化に応じて随時見直しもしている。家族には面会時や電話にて説明をし、意見・要望を計画に反映している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録し、職員間で情報を共有できるように努めています。 また、毎日の申し送りやカンファレンスを活用し、本人様にとって心地よい場となる様心掛けています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	文化都市である町の地域資源を活かし、且つ情報の収集に努め、日々サービスの多機能化や適切かつ柔軟な支援となる様取り組んでいます。		

けんちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くのスーパーへお散歩しながら職員と一緒に買い物に出掛けたり、息子様の展覧会に出掛けたり等、一人一人の生活を大切に、楽しみながら生活して頂けるよう日々努力しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医はとても大切にしています。可能な限りご家族にて受診対応をして頂いていますが、出来ない時は施設にて対応させて頂いております。その際もご家族の意向はしっかり伝えていきます。 また、常に医療機関と連携を図り信頼関係を築くよう努めています。	利用前からのかかりつけ医をそのまま継続されている方が多く、利用契約時に協力病院、診療所についても説明し、月2回の往診で診ていただき必要に応じて家族に報告もしている。家族が受診の付き添いをする時には看護師から情報提供をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は、一職員として業務にあたっています。その中で常に看護師と情報を共有・相談し、安心して生活が送れる様、必要に応じて適切な受診や看護サービスを提供しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	常に、医療機関とも連携をとり、安心して治療できる体制となる様に努めています。 また、退院前のカンファレンスには、家族と共に出来るだけ出席して、退院後も安心して生活して頂けるよう努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りケアに関して、契約時に説明させて頂いています。 終末期となった際には、再度ご家族と話し合いを行いながら、利用者様に沿ったサービスを行うように努めています。 また、主治医とも連携を密にしチームケアで取り組んでいます。	契約時にホームとしての対応を説明し本人や家族の意向も聞いているが、状態の変化により気持ちが変わることもあるのでその都度、家族、主治医、看護師、職員で話し合い、希望に沿えるよう取り組んでいる。本人や家族の希望により今年の冬に看取りも行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアル・緊急対応リストを特定の場所に置き、急変時に落ち着いて行動出来る様に工夫をしています。 また、避難訓練の際に応急処置等の訓練を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に避難訓練を行い、全職員が対応出来る様、訓練を交えて行っています。 また、近隣の方には火災があった際はすぐに駆けつけて頂ける体制となっており、最低でも年に2回は近隣の方にも参加して頂き、避難訓練を行っています。	年2回消防署の協力を得て防火訓練、避難訓練を行っている。近隣5軒には非常災害時の協力を依頼し非常ボタンを通じる体制となっており、避難訓練にも参加していただいている。今後、職員間での役割分担を更に明確にし訓練を充実させていきたいとの意向もある。食料品や介護用品などの備蓄もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様個々の尊厳を大切にし、対応するように全職員で心掛けています。その際は、職員同士で指摘し合える環境となる様努めています。	ボランティアで来訪していただく方には、プライバシー保護についての説明を行っている。男性職員もおり、利用者にも男性がいることから、入浴をはじめ異性介護などについても希望を聞き、浴えるよう取り組んでいる。プライバシー保護の研修も年1回予定しており、日頃の振り返りを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご自身で自己決定できるように努めています。特に認知症があり、なかなかご自身の意向を伝えることが難しい利用者様に対しては、日頃接している中からヒントを得たり、はい・いいえで答えやすいよう工夫をしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に、希望に沿って支援するよう努めています。ただ、共同生活となっており、時には希望に沿えないこともあります。その際は利用者様とよく話し、打開策を見出すように努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしさを大切に、おしゃれが楽しめる様、買い物に出掛けたりして支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好みを大切に、楽しく食事をして頂けるようにしています。出来るだけ、利用者様と一緒に準備や片付け等を行うように努めています。	利用者の希望に沿いレク担当職員が外出を兼ねての企画を練り外食を実施している。。食事は併設の小規模多機能型居宅介護のキッチンで担当職員がまとめて作っている。誕生日には赤飯、ちらし寿司など特別メニューでお祝いし、また、本人のおやつ希望を聞き、おはぎやお饅頭などの甘いもので他の利用者と共に祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様によっては、残すことに罪悪感を感じ無理をして食べようとされる方もいらっしゃいます。そういった方へ配慮する為にも、盛り付ける量はその方に応じて変更しています。また、毎日の食事量等はチェックリストに記載し把握し、必要時補食等をして頂くようにしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人様の思いを尊重しながら、毎食後行って頂いています。口腔衛生の方法も個々に合わせて、出来る限りご自身で行って頂けるよう、支援するようにしています。		

けんちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は、出来るだけ綿パンツで過ごして頂く等、自立に向けた支援を行っています。 特に尿意・便意が分からない方には、その方の排尿・排便のリズムに合わせてトイレ誘導するよう心掛けています。	排泄管理表により把握しており、夜間のみポータブルを使用している方もいる。個々の排泄リズムや様子からキャッチトイレ誘導を行い、トイレで排泄出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排便感覚をしっかり把握した上で、出来る限り自然排便となる様、運動や水分摂取を心掛けています。どうしても、高齢となると腸の動きも鈍くなるため、時には腹部マッサージを行っています。 また、排便のチェックリストを活用し、便秘とならないよう気を付けています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴のタイミングは、本人様の希望に沿えるよう努めています。 入浴中もゆっくりと楽しめる様配慮しています。	2ユニット共、毎日、午前・午後の入浴が可能となっており、日々希望を聞き週2回以上は入っていただいている。遠慮されている方も声掛けなどの工夫により週2回は入浴していただいている。お風呂でも季節感覚が味わえるよう柚子湯なども行なっている。片方のユニットのお風呂は浴槽が移動でき、重度になっても介助しやすい工夫がされている。福祉風呂のある温泉への外出も検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣に合わせて、心地よく眠って頂けるよう支援しています。 特に冬場は、自宅で使用されていた暖房器具を使用するようにしており、安心して休んで頂ける様努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬の情報は常に確認できるようにしています。 特に、薬が変更となった際は、必ず全職員が共有できるよう業務日誌にて情報提供をすると共に、その後の状態観察を行うようにしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の生活歴を大切に、毎日笑って過ごして頂けるよう努めています。 また、役割を大切に、いきいき生活して頂けるよう心掛けています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、散歩に出かけるようにしています。 可能な限り本人様の希望を把握し、外出を兼ねて外食にも出掛けるようにしています。 また、ご家族との外出が困難な際は、送迎等を支援し、出来るだけ外出し、ご家族との時間を大切に頂くよう努めています。	日々、天気と利用者の健康状態に配慮しつつ散歩など外気に触れる機会を設けている。季節に応じた花見、バラ公園の見学、紅葉狩り、外食を兼ねての外出、地元のお祭りへの参加など、出来る限り外出の支援を行っている。	

けんちゃん家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご自身でお金を使えるように支援することはなかなか難しいことですが、職員と共に買い物に出かけて、欲しい物を一緒に買うようにしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年に1度は、年賀状を書いて頂き、出すようにしています。 また、ご家族から小包が届いた際は、お礼の手紙を書いて頂くよう支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレや居間に目印をつけ、わかりやすいように工夫しています。 施設全体が、木を基調とした温もりある作りとなっています。 冬には暖炉の火が囲炉裏を連想し、さらに心地よい空間となっています。	各ユニットのリビングは広々としており、そのリビングから町のオープンガーデンに登録されている広々した庭園が見える。落ち着いた雰囲気、利用者からも「静かで気持ちがいい」という言葉が聞こえてきた。パンフレットと同じ地元の画家による壁画が描かれており、温かさが感じられた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々に合わせて、思い思いに過ごして頂けるように努めています。 一人になりたいときは、干渉せず、そっと見守り、みんなでレクリエーションを行う際は、職員が間に入りながら、楽しく行えるよう支援しています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に、出来るだけ馴染みのものを一緒に持って来て頂くようにしています。 特に、認知症の方は環境に敏感なので、寝具等も含め出来るだけ、自宅で使用されていたものを使って頂くようにしています。	居室には使い慣れた家具、孫やひ孫の写真などが思い思いに飾られている。中にはお気に入りの歌手の大きなポスターが飾られた居室もあり、居心地の良さが感じられた。カーテンも自由に選んで下げており、一人ひとりの個性が感じられる「自分好みの居室」づくりがされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設の介護理念でもあり、「できること、わかっていること」を大切に、そして出来るだけ維持出来る様に支援するようになっています。 その際、常に安全であるかを考慮しながら行うようにしています。		